

連合農学研究科教員 個人調書

(令和 3年 12月 14日作成)

希望する専攻等	農林共生社会科学専攻 農林共生社会科学大講座 (専門分野) (教育研究分野の内容) 教職教育、ESD (持続可能な開発のための教育)	
希望する申請資格	<input checked="" type="checkbox"/> 主指導教員資格 連大指導教員資格の有無 <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 指導教員資格	
人文社会科学系教員資格審査の適用 <input checked="" type="checkbox"/>		
ふりがな氏名	ふりはた しんいち 降旗 信一	
所属部局講座等・職	東京農工大学農学部・教授	
担当修士課程	農学府 農学専攻 (分野等: 地球社会学プログラム)	
学歴・職歴 (学歴は大学学部卒業から記入し、職歴は学歴の次に区別して記入) 年 月 事 項 <学歴> 昭和 60 年 3 月 東京農業大学農学部畜産学科 卒業 平成 12 年 4 月 東京農工大学大学院農学研究科 (修士課程) 入学 平成 14 年 3 月 東京農工大学大学院農学研究科 (修士課程) 修了 平成 14 年 4 月 東京農工大学大学院連合農学研究科 (博士課程) 入学 平成 17 年 3 月 東京農工大学大学院連合農学研究科 (博士課程) 修了 <職歴> 昭和 60 年 4 月 株式会社日本テクニカルシステム研究員 平成 9 年 8 月 社団法人日本ネイチャーゲーム協会理事長 d 平成 22 年 4 月 東京農工大学大学院農学研究院准教授 平成 29 年 1 月 東京農工大学大学院農学研究院教授 (現在に至る)		
業績概要	学位の名称 東京農工大学 博士 (学術) (平成 17 年 3 月取得)	
	学位論文名 現代自然体験学習の成立と発展	
	論文・著書	論文 44 編 (最近 5 年 8 編)・著書 8 編 (最近 5 年 4 編) その他 90 編 (最近 5 年 11 編)
	学会賞等の名称	
学会及び社会における活動	日本環境教育学会常任理事・編集委員長 (2009 年 4 月～2012 年 3 月) 日本環境教育学会常任理事・国際交流委員長 (2011 年 7 月～2014 年 6 月)	

(1) 教育研究分野に関する主な業績 (このページ内におさめること)

(著者, 題目, 発表学会誌又は発行所, 日本学術会議協力学術研究団体名等, 巻, (号), ページ, 年の順に記載)

<著書>

- *1. *[降旗信一](#), 高田研他, 持続可能な地域と学校のための学習社会文化論, 学文社, 1-151, 2017.
- *2. 鈴木敏正, *[降旗信一](#), 他, 教育の課程と方法—持続可能で包容的な未来のために—, 学文社, 1-228, 2017.
- *3. 小玉敏也, 鈴木敏正, *[降旗信一](#)他, 持続可能な未来のための教育制度論, 学文社, 1-218, 2018.
- *4. 岩本泰, 小玉敏也, *[降旗信一](#), 教職概論—「包容的で質の高い教育」のために—, 学文社, 1-183, 2019.

<論文>

1. *[降旗信一](#), 環境思想における「発達の教育学」をめぐる考察—3.11後のレジリアンス学習に着目しつつ—, ESD (持続可能な開発のための教育) と自然体験学習—持続可能な社会のための教職教育・指導者育成に向けて—, 風間書房, 279-296, 2014.
2. *[降旗信一](#), ESD・環境教育実践としての「食農体験学習」の思想的考察, ESD (持続可能な開発のための教育) と自然体験学習—持続可能な社会のための教職教育・指導者育成に向けて—, 風間書房, 57-74, 2014.
3. *[降旗信一](#), 環境思想における「教育」の位置づけをめぐる考察—J. ロックの所有・共有地概念に着目して—, ESD (持続可能な開発のための教育) と自然体験学習—持続可能な社会のための教職教育・指導者育成に向けて—, 風間書房, 39-55, 2014.
4. *[降旗信一](#), 現代自然体験学習の思想—experienceの理解を軸に—, ESD (持続可能な開発のための教育) と自然体験学習—持続可能な社会のための教職教育・指導者育成に向けて—, 風間書房, 17-37, 2014.
5. *[降旗信一](#), 自然保護から自然体験学習を経て自然再生学習へ—教職教育の立場から—, 環境教育と開発教育 (鈴木敏正, 佐藤真久, 田中治彦編), 筑波書房, 99-111, 2014.
6. *[降旗信一](#), 明英, 農村の地域再生に向けた長期災害復興ボランティアの主体形成—宮城県石巻市立A小学校区の報告から—, 自然体験学習実践研究, 2(1):7-20, 2014,
7. *[降旗信一](#), 子どもの居場所づくりをどう進めるか—3.11以後の環境教育・自然体験学習論を踏まえて, 総合人間学 (総合人間学会), 9, 31-41, 2015.
8. *[降旗信一](#), 公害教育における自然体験学習—水俣公害教育史における自然体験学習実践の成立期を探る—, 環境教育 (日本環境教育学会), 25(2):16-27, 2015.
- *9. *[降旗信一](#)・Allen David, 新しい社会・地域教育の役割と実践展開—日本型ESDで地域の誇りを取り戻すための教師の養成と大学の使命, 共生社会Ⅱ—共生社会をつくる (共生社会システム学会), 109-123, 2016.
- *10. *[降旗信一](#), 岩松真紀他, 自然環境調査学習における市民参加の意義と支援機関としての地方環境研究所の役割, 自然体験学習実践研究, 2(2), 69-88, 2017.
- *11. *Ninomiya-Lim Sachi, [Furihata Shinichi](#) et al, Reorienting Japanese university education towards community resilience in the wake of disaster responsiveness, DOI:10.3920/978-90-8686-846-9, 2017年2月
- *12. *Ninomiya-Lim Sachi, Sakurai [Furihata Shinichi](#) et al, Sharing, comparing, and developing environmental education in Asia: For the journey to be continued, DOI:<https://doi.org/10.5647/jsoee.26.4.77>, June 30, 2017
- *13. *[降旗信一](#), 金子雄, 防災, 復興教育から始まる持続可能な地域づくり教育における農業高校の可能性, 社会教育における防災教育の展開, 大学教育出版, 149-169, 2018.
- *14. *To Kimiharu, [Furihata Shinichi](#) et al, International collaborative research possibilities for environmental education in Asia, <https://doi.org/10.5647/jsoee.28.4.77>, 2019/07/31
- *15. *[降旗信一](#)他, 総合的な学習/探求の時間—持続可能な未来の創造と探求—, 学文社, 17-24, 2020.
- *16. *[降旗信一](#), 秦 範子他, 環境教育における災害の学びのあり方を考える—防災環境教育 (災害と環境教育) セミナー・フォーラムの開催に向けて—, 環境教育 (日本環境教育学会), 20(1), 62-67, 2020. <https://doi.org/10.5647/jsoee.30.1.62>

(2) 前記(1)以外の主な業績

(教育研究分野に関する主な業績欄に記載したものを除き、著者、題目、学術誌名(発行者等)、巻(号)、開始及び終了のページ、発表年の順に記載)

<著書>

1. *降旗信一, 自然案内人, ほるぷ出版, 1-180, 1992.
2. *降旗信一, ネイチャーゲームでひろがる環境教育, 中央法規, 1-199, 2001.
3. *降旗信一, 朝岡幸彦編著. 自然体験学習論-豊かな自然体験学習と子どもの未来, 高文堂出版社, 1-266, 2006.
4. *降旗信一, 高橋正弘編著, 現代環境教育入門, 筑波書房, 1-221, 2009.

<論文>

1. *降旗信一, 環境教育実践としてのネイチャーゲームの成立と発展, 環境教育, 日本環境教育学会, 12(2):3-14, 2003.
2. *降旗信一, 国連持続可能な開発のための教育の十年(UN-DESD)における社会教育の課題, グローバリゼーションと社会教育・生涯学習(日本社会教育学会編・日本の社会教育第49集), 186-198, 2005.
3. *降旗信一, 櫃本真美代, 石坂孝善, 伊東静一, 畠山芽生, Significant Life Experiences (SLE) 調査の可能性と課題, 環境教育, 日本環境教育学会, 15:2:2-13, 2006.
4. *FURIHATA Shinichi, The Japanese Trend on Implementation and Theorization of "Pedagogy" and "Program Development" in Environmental Education, 環境教育, 日本環境教育学会, Vol. 16 No. 1, 103-107, 2006.
5. *FURIHATA Shinichi, HITUMOTO Mamiyo, ISHIZAKA Takayoshi, ITO Seiichi, HATAKEYAMA Mei, Potentials and Challenges of Research on "Significant Life Experiences" in Japan, *Children Youth and Environments*, 17(4):207-226, 2007.
6. *降旗信一, 宮野純次, 能條歩, 藤井浩樹, 環境教育としての自然体験学習の課題と展望, 環境教育, 日本環境教育学会, Vol. 19 No. 1:3-16, 2009.
7. *降旗信一, 環境教育におけるコーディネーター 学びあうコミュニティを培う-社会教育が提案する新しい専門職像-, 日本社会教育学会, 181-186, 2009.
8. *降旗信一, 環境教育研究の到達点と課題, 環境教育, 日本環境教育学会, Vol. 19 No. 3:76-87, 2010.
9. *降旗信一, 持続可能な地域づくりに向けた共生教育の展望, 共生社会システム研究(共生社会システム学会編), 4巻1号:13-28, 2010.
10. *降旗信一. 社会教育・生涯学習関連法としての環境保全活動・環境教育推進法の課題. 教育法体系の改編と社会教育・生涯学習(日本社会教育学会編・日本の社会教育第54集). 96-109. 2010.
11. *降旗信一, 食農体験学習から「農と共生の教育共同体」の創造へー韓国・プルム実践を支える〈農〉と共生の教育思想にふれつつー, 〈農〉と共生の思想 〈農〉の復権の哲学的探求, 農林統計出版, 221-235, 2011.
12. *降旗信一, 自然体験学習における地域づくり主体形成の拠点, 自然体験学習実践研究, 第一巻3号, 61-74. 2011.

13. *降旗信一, 環境教育の目的と方法—環境保全意識向上につながる自然観察・自然体験, 環境教育 (日本環境教育学会編), 教育出版, 107-118. 2012.
14. *降旗信一, 福田祥子, 自然体験活動リーダー共通登録制度における社会教育・生涯学習団体の課題, 自然体験学習実践研究 1 巻 1 号, 91-102, 2007.
15. *降旗信一, 1970 年代から 80 年代にかけての自然保護教育の方法論的模索—日本ナチュラリスト協会の実践史より—, 小川潔, 伊東静一, 又井裕子編著, 自然保護教育論, 筑波書房, 103-121, 2008.
16. *降旗信一, 自然体験を責任ある行動へ—自然体験学習論—, 高文堂出版社. 新しい環境教育の実践, 73-105, 2006.
17. *降旗信一, ESD の視点からみた自然系環境教育の可能性と課題, 農村文化運動, No182 (農文協), 58-65, 2006.
18. 朝岡幸彦, *降旗信一, 自然体験学習系環境教育の地域指導者の現状と課題, 自然体験学習実践研究 1 巻 1 号, 5-25 (このうち 11-23 を執筆), 2007.
19. *降旗信一, 農山漁村における環境教育指導者養成カリキュラムの課題, 自然体験学習実践研究 1 巻 2 号: 21-35, 2009.
20. *降旗信一, 自然体験学習実践における青少年教育の現状と課題—自然学校の成立と発展に注目して—, 現代自然体験学習の成立と発展, 風間書房, 32-40, 2012.
21. *降旗信一, ネイチャーゲームの思想的起源, 現代自然体験学習の成立と発展, 風間書房, 25-49, 2012.
22. *降旗信一, ネイチャーゲームの歴史的展開過程, 現代自然体験学習の成立と発展, 風間書房. 50-65, 2012.
23. *降旗信一, ネイチャーゲーム実践の構造と変容, 現代自然体験学習の成立と発展, 風間書房, 65-76, 2012.
24. *降旗信一, 環境教育実践としてのネイチャーゲームの評価, 現代自然体験学習の成立と発展, 風間書房, 76-88, 2012.
25. *降旗信一, 環境教育の目標と自然体験学習, 現代自然体験学習の成立と発展, 風間書房, 89-95, 2012.
26. *降旗信一, 環境問題を引き起こした人間とは何か—総合人間学と環境教育学の架橋となる問題意識—, 総合人間学, 第 6 号. 2012.
27. *降旗信一, 元鍾彬, 韓国農村における共生型教育共同体の現状と課題—「学校から住民への貢献アプローチ型」教育共同体としてのプルム学校の特徴—, 共生社会システム研究, 第 6 巻. 2012.
28. *降旗信一, ニノ宮リム さち, 野口 扶美子, 小堀 洋美環境教育の再構築に向けたレジリアンス研究の動向—災害に向き合う地域のカー—, 環境教育 (日本環境教育学会) 22(2):47-58, 2013.

【その他の論文・解説 (書)・報告等】

(解説・総説等)

1. *降旗信一(1992)「コミュニケーションの基礎技術、森林活動のプログラム」森林インストラクター入門. 全国林業改良普及協会. 278-283. 367-369.
2. *降旗信一(1992)環境教育プログラムとは何か. 日本型環境教育の提案. 小学館. 34-37.

3. *降旗信一(1994)ネイチャーゲーム 自治体・地域の環境戦略 3. ぎょうせい. 305-315.
4. *降旗信一(1994)ネイチャーゲームを体験する. 環境にいいことはじめよう. 中央法規. 16-19.
5. *降旗信一(1995)野外レクリエーションにおいていかに環境保護との調和をはかるか. 自然にやさしい野外レクリエーションのすすめ. 日本レクリエーション協会. 68-71.
6. *降旗信一(1996)自然との共生・自然とのふれあい. 市政 45(3): 78-81.
7. *降旗信一(1998)現代スポーツあれこれ. 文部時報 1464:72-73.
8. *降旗信一(1998)21世紀に向けた野外活動の振興について. 教育委員会月報(文部省教育助成局監修・第一法規刊行). 23-24.
9. *降旗信一(1999)野外教育プログラムの知的財産権. 野外教育指導者読本. 野外教育指導者研究会. 36-37. 118-119.
10. *降旗信一(2000)生きる力とネイチャーゲーム. 指導と評価 2000年7月号. 日本教育評価研究会. 2-3.
11. *降旗信一(2001)災害・環境に関する学びと地域づくり, 社会教育全国集会、日本の社会教育実践 62-63.
12. *降旗信一(2001)冬の自然を五感で感じるネイチャーゲーム. 野外教育情報 9. 財団法人日本野外教育研究所. 18-27.
13. *降旗信一(2002)狭山丘陵における市民環境運動の新しい萌芽. 環境教育・青少年教育研究第1号. 東京農工大学環境教育学・青少年教育研究室. 28-36.
14. *降旗信一(2002)自分にやらせてください. キャンピング. 社団法人日本キャンプ協会. 88: 12.
15. *降旗信一(2002)日本におけるネイチャーゲーム(Sharing Nature)活動の成立と発展. 日本科学教育学会研究会研究報告 17(2): 7-12.
16. *降旗信一(2003)暮らしとつながるネイチャーゲーム. 青少年問題 2003年8月号. 青少年問題研究会. 22-27.
17. *降旗信一, 小栗有子(2003)教育と持続可能性-グローバルな挑戦に就いて-(共監訳. レスティー. 1-191.
18. *(2003)翻訳 Significant Life Experience 再訪:「環境への感性」の起点に関する研究の動向(Louise Chawla 著). 環境教育・青少年教育研究 16-29.
19. *降旗信一(2003)『持続可能な開発のための教育の10年』推進会議(ESD-J)の活動について. かんきょう 2003年11月号: 17-18.
20. *降旗信一(2004) UNDES Dに関する2003年度の日本政府の動き. 「国連持続可能な開発のための教育の10年」への助走. 持続可能な開発のための教育の10年推進会議. 6-7.
21. *降旗信一(2004)「有意義な自然体験」及び「持続可能な開発のための教育」からみた高等教育の現状と課題. 平成15年度科学研究補助金基礎研究C「NPO 店自治体による青少年の自立支援と自然体験学習の可能性に関する基礎研究」(課題番号 14510268 研究代表者 小島喜孝) 報告書. 105-115.
22. *降旗信一(2004)日本におけるネイチャーゲーム(Sharing Nature)活動の成立と発展. 平成13~15年度科学研究補助金基礎研究A「科学系博物館・野外センターと学校が連携した動的プログラムの開発」(課題番号 13308010 研究代表者 野上智行) 報告書. 4-9.
23. *降旗信一(2004)プレイベント「持続可能な開発のための教育の10年」とどう向き合うか. 環

境教育ニュースレター64:5.

24. *降旗信一・櫃本真美代・石坂孝善・伊東静一・畠山芽生(2004)Significant Life Experiences(SLE)の成立と発展.環境教育・青少年教育研究第3:13-24.
25. *降旗信一(2004).持続可能な開発のための教育(ESD)としてのネイチャーゲーム.林野時報51(9):24-27.
26. *降旗信一(2005)自然体験学習における「持続可能な開発のための教育(ESD)」の展望.日本環境教育学会大会要旨集104.
27. *朝岡幸彦・畠山芽生・降旗信一(2005)環境NPOスタッフの資質と力量形成.平成15・16年度科学研究費補助金(基礎研究(C)(1))「NPOの人材育成と地域社会における活用システムに関する研究」(課題番号:15601001 研究代表者 佐藤一子)報告書 79-85.
28. *降旗信一(2005)Sharing Nature: A Remarkable Development in Japan.平成15・16年度科学研究費補助金(基礎研究(C)(2))「自然保護・野外活動系環境教育の学習過程に関する理論的・実証的研究」(課題番号:15500576 研究代表者 朝岡幸彦)報告書 96-100.
29. *降旗信一(2005)自然体験学習と環境教育.環境思想キーワード.青木書店.24-25.
30. *降旗信一(2005).国連持続可能な開発のための教育の10年の可能性と課題.日本社会教育学会紀要41:95-97.
31. *降旗信一(2005)「持続可能な社会」に向けた自然体験学習.日本科学教育学会年会論文集29:195-196.
32. *降旗信一(2005)持続可能な開発のための教育の十年について.こども白書2005.草土文化社.241-242.
33. *降旗信一(2005)国際技術協力における環境教育に関する指導者養成の成果と課題.東部アゾン環境教育プロジェクト業務完了報告書.28-31.
34. *降旗信一(2005),ESDにおける実践評価の視点」持続可能な開発のための教育の10年推進会議年間活動報告書.「持続可能な開発のための教育の10年」推進会議.30-32.
35. *降旗信一(2006),組織を活かした支援活動.あなただからできる自然災害ボランティアABC.ネイチャーゲーム研究所.2-3.116-119.
36. *降旗信一(2006),小学校教育における自然体験の意義.東書Eネット.平成18年6月号.東京書籍.
37. *降旗信一(2006),都市と農山漁村の交流活動の効果.“青少年の自然体験活動の充実に向けて～.青少年の都市と農山漁村の交流活動推進に関する調査研究事業報告書～.特定非営利活動法人自然体験活動推進協議会.53-63.
38. *降旗信一(2006),自然体験活動を通じた地域連携のためのコアリーダーの育成.特定非営利活動法人自然体験活動推進協議会.1-10.
39. *降旗信一(2006),科学教育としてのネイチャーゲームの可能性.日本科学教育学会年会論文集30:105-108.
40. *降旗信一(2007),持続可能な開発(発展)のための学びの拠点としての自然学校.月刊公民館6月号.8-11.
41. *降旗信一(2007),理科で知っておきたい用語.理科の教育6月号.東洋館出版社.40-41.42
42. *降旗信一(2007),小学校教員の研修課題からみた自然体験学習推進地域システムの可能性.日本科学教育学会年会論文集31.415-418.

43. *降旗信一(2007), 教育基本法改正と環境教育. 地球のこども 2007年11月号. 社団法人日本環境教育フォーラム. 2.
44. *降旗信一, 黒田篤志, 五島政一, 日置光久, 藤修, 保母禎造, 村山哲哉(2007). 小学校の授業にいきるネイチャーゲーム. ネイチャーゲーム研究所 3. 20-21. 25.
45. *降旗信一(2008), 理科としてのネイチャーゲーム・環境体験型学習の可能性～ネイチャーゲーム創始者 J. コーネル氏からの提案を受けて～. 楽しい理科授業 2008年6月号 6-11.
46. *降旗信一, 小栗有子(2008) 鹿児島大学かごしまルネッサンスアカデミー・健康環境文化コース(第一期)における社会人向けリカレント教育カリキュラムの開発と評価, 鹿児島大学生涯学習教育研究センター年報第5: 71-87.
47. *降旗信一(2008), 子ども農山漁村交流プロジェクトの概要と課題. 日本環境教育学会ニューズレター84: 6.
48. *降旗信一, 小玉敏也, 福田祥子(2009). 「自然体験系環境教育指導者の資質と力量形成に関する調査報告書」 ESD・環境史研究第9: 1-12.
49. *降旗信一(2009), 環境教育における社会教育・生涯学習関連法の課題. 日本社会教育学会紀要 45: 54-56.
50. *朝岡幸彦, 降旗信一, 櫃本真美代, 萩原豪, 楊恵淳(2009) 台湾におけるGW型地域づくりの可能性. 自然体験学習実践研究1(2): 133-149.
51. *降旗信一, 温山陽介, 塚島幸太, 孟蘭, 高松藍(2010) 自然災害と向き合う地域づくり主体形成拠点の取り組み～宮城県栗原市における自然体験学習指導者組織(自然学校)の活動～. ESD・環境史研究 10: 133-145.
52. *降旗信一(2011), COP10の意義と研究・運動への影響. 月刊社会教育 663:74-79.
53. *降旗信一, 山本恵, 温山陽介, 南郷展, 那仁巴図, 茹今, 石橋明日香(2011) 中学校における環境保全認識の獲得のためのカリキュラム開発—教科「環境」(案)の目標の設定—. 環境教育研究(東京学芸大学環境教育実践施設研究報告) 20: 5-27.
54. *降旗信一, 元鍾彬(2011) 地域教育共同体における地域づくり計画の策定過程と環境教育～韓国・プルム・ムンダン里 21世紀百年計画に着目して～. 韓国農村教育共同体運動と代案学校・協同組合の展開. 「地域と教育」再生研究会調査研究報告書第1号. 北海道大学大学院教育学研究院社会教育研究室. 125-137.
55. *降旗信一(2011), 沼津・三島の公害反対運動・環境学習実践. 月刊社会教育. 669: 31-35.
56. *降旗信一(2011), 酪農と自然公園のまちなちの地域環境教育実践—北海道標茶町の虹別コロカムの会の活動に学ぶ—. 月刊社会教育 673: 74-75.
57. *降旗信一(2012), 原発問題と社会教育. 2012. 1. 28 日本社会教育学会・韓国平生教育学会第3回学術交流研究大会要旨集 31-35.
58. *降旗信一(2012), 環境思想研究における環境教育の意義と可能性—社会—生態システム論研究に着目して—. 尾関周二退官記念論文集 127-134.
59. 高田研, 渡辺豊博, 西岡昭夫, 宮本憲一, 藤岡貞彦, 岩松真紀, *降旗信一(2012), 公害学習から地域再生へ～沼津・三島コンビナート建設反対運動をふりかえり今日の地域再生運動との接点を探る学習会の報告～. 環境教育 21(3): 48-55.
60. *降旗信一, 諏訪哲郎, 元鍾彬, 萩原豪, 小堀洋美, 二ノ宮リムさち, 村松陸雄, 佐藤真久, 高雄綾子, 小栗有子, 高野孝子(2012) 環境教育および関連分野の 2011 年度国際動向—環境教育関連学会

の活動を中心に- .環境教育 21(3):39-47.

61. 広瀬敏通, 佐々木豊志, *降旗信一(2013) 自然体験学習から災害教育へ— 阪神・淡路大震災から東日本大震災までの自然学校指導者の災害への取り組み —. 環境教育 22(2):74-81.
62. *降旗信一, 広瀬敏通, 佐々木豊志, 高田研, 高木晴光, 伊藤聡, 柏崎未来, 進士徹, 能條歩(2013) 被災地における救援と復興支援—被災地で自然学校にできたこと、これからやろうとしていること—. 日本の環境教育 1:27-34.
63. *降旗信一(2013), 解題 Joe E. Heimlich “ Making an Opportunity by Ignoring History” について. 環境教育 22 (2) : 69-72.
64. *降旗信一, 菅野みゆき, 斉藤雅洋, 孫文, 加賀芳恵, 鄭いか(2013) 災害教育」分野の基礎文献・関連文献. BOOKLET 災害教育 2012「利他と貢献が社会を変える」. 一般社団法人 RQ 災害教育センター59-64.
65. 加賀芳恵, 石山雄貴, 丸谷聡子, 李曉曄, 野田恵, 秦範子, *降旗信一(2013), 自然保護教育・自然体験学習分野の基礎文献・関連文献についての紹介. 環境教育. 23(1): 68-72.
66. *降旗信一(2013), 平成 24 年度河川整備基金助成事業報告書「コミュニティレジリエンス (地域の災害への対応力) を高める学社融合型「川に学ぶ」教育プログラムの開発」1-36.
67. *降旗信一(2013), ESD・センスオブワンダー・コミュニケーション能力・ヨハネスブルクサミット・感性・環境配慮行動・持続可能な社会・自然体験活動・食農教育・地域づくり・地域再生. 環境教育辞典 71-72 83-84 123-124 144-145 150 163-164 196-197 212-213 310 330-331 .
68. *降旗信一・茹今・孫文(2014) ESD・生物多様性教育のための教職教育の展望—「地域の生物多様性」を切り口とした地域教育計画モデルとしての教職教育をめざして—. 農学・環境系の教職実践研究 1(1):3-16.
69. 櫃本真美代, 南里悦史, 野村卓, 二ノ宮リムさち, 岩松真紀, *降旗信一(2013), 大学農場施設を活用した「学校と地域の連携」による食育・農業体験学習の展望と課題～東京農工大学農学部教職授業における「農学・環境系ファシリテーター」の育成と「教職ファーム」の活用につれつつ～. 農学・環境系の教職実践研究 1(1):17-27.
70. 山本恵, *降旗信一, 温山陽介, 南郷展, 那仁巴図, 茹今, 石橋明日香(2011) 独立教科「環境」の成立の可能性と課題. 農学・環境系の教職実践研究 1(1):37-42.
71. 李曉曄, 岩松真紀, 石橋明日香, 茹今, *降旗信一(2012) 教職課程における環境教育カリキュラムの開発～指標の活用を通じた「環境」の授業づくり～. 農学・環境系の教職実践研究 1(1):43-48.
72. *降旗信一(2014), 平成 25 年度河川整備基金助成事業報告書「レジリエンス (災害復元力) 教育による学社融合型の「川に学ぶ」教育プログラムの開発 : GRZ (Greening in the Red Zone) 理論を活用したモデルプログラムの開発」. 1-42.
73. 棚橋乾, 水山光春, 小玉敏也, 高城英子, *諏訪哲郎, 降旗信一(2014), 「座談会「環境教育の教科化を考える—学校教育の現場から—」」. 環境教育 24(1):107-121.
74. *降旗信一, 加賀芳恵, 小川潔, 斉藤雅洋(2014) アクティブな研究者としての子ども. 自然体験学習実践研究 2(1):91-106.
75. 高野孝子, 萩原豪, 野口扶美子, 佐藤真久, 二ノ宮リムさち, 元鐘彬, 桜井良, 長濱和代, *降旗信一(2015), 日本環境教育学会協定学会を中心とした環境教育の国際動向 (2014 年度) と今後の国際交流の活性化に向けた提案. 環境教育 24(3):114-122.

76. *降旗信一(2015), 「災害の時代」の公民館の可能性—「生きる連合体」と「跳ね返す力」. 月刊公民館. 2015年7月号 10-15.
77. *降旗信一, マニタシュレスタ(2015)ネパール共和国のCLCを通じた災害教育プログラムの開発に関する事業開発調査報告書. 東京農工大学大学院共生教育学研究室. 1-42.
78. *降旗信一(2015), 学生とPTAがともに学ぶ自治体教育行財政—「開かれた学校」に向けた教職教育の可能性, 月刊社会教育, 713:10-16, 2015.
79. * Shinichi Furihata, Paul Ofei-Manu(2015) Japan-A Presentation for Grobal Environmental Education Partnership Meeting-2015 in San Diego, California.
- *80. *降旗信一(2016), 環境教育思想研究への2つのアプローチ—アジアおよび世界との共同研究に向けて—, 環境思想・教育研究, 9:50-56.
- *81. *降旗信一(2016), 防災教育と環境教育. 小学館ムック「ESD」, 108.
- *82. *Shinichi Furihata, Sachi Ninomiya-Lim(2017), Environmental Education in Asia: Questions and Challenges, Japanese Journal of Environmental Education, 26(4), https://doi.org/10.5647/jsoee.26.4_1
- *83. 保母禎造・河村幸子・菊池稔・三浦巧也・*降旗信一(2017), 持続可能性教育のための「理科教育法」授業の評価の視点—「ESD塾」と「おもしろ実験」を通じた中学校理科におけるアクティブ・ラーニングの開発を通して—, 農学・環境系の教職実践研究, 2(2):
- *84. 二ノ宮リムさち・古里貴士・高梨宏子・*降旗信一・松本和信(2019), 大学生による学習支援を通じた中学生の非認知スキル育成・ESDの可能性—秦野市立大根中学校生徒を対象とした東海大学ESD塾の実践—, 東海大学現代教養センター紀要, 3:81-90
- *85. Ryo Sakurai, *Shinichi Furihata(2019), Advancing Environmental Education Research from Asia: Why Asia?, Japanese Journal of Environmental Education, 28(4):85-88, https://doi.org/10.5647/jsoee.28.4_85
- *86. *Shinichi Furihata, Ryo Sakurai(2019), Environmental Education Research in Asia, Japanese Journal of Environmental Education, 28(4):1-3, https://doi.org/10.5647/jsoee.28.4_1
- *87. 菊池稔・*降旗信一(2020), 教職授業「教育課程論」における「社会にひらかれた教育課程」学習の到達点—SDGsのための防災教育の視点から—, 農学・環境系の教職実践研究, 4(1):12-17.
- *88. *降旗信一・菊池稔(2020), SDGs時代のキャリア教育の課題, 農学・環境系の教職実践研究, 4(1):8-11.
- *89. *降旗信一(2020), SDGsのための防災教育の課題—大学を媒介した自主防災組織における学社融合ESDプログラムの開発に向けて—, 社会教育における防災教育のグローバル展開, 59-64
- *90. *降旗信一・菊池稔・板倉浩幸・山崎仁博・佐藤育義・八幡幸司・三浦巧也・朝岡幸彦。、中学校の「総合的な学習の時間」における「研究」授業の可能性、農学・環境系の教職実践研究, 4(1):24-32.

